上矢作小学校だより

大船山

第　3　号

平成３０年６月４日

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/

コミュニティースクールへの移行

平成 30 年度がスタートして，２ヶ月が経ちました。先週は６年生が奈良・京都への修学旅行に行って来ました。１日目は昼前後から雨に降られ，若草山には登れませんでしたが，興福寺の見学から夜の買い物では雨に降られずに予定通りの日程を消化することができました。２日目の京都は天気に恵まれて，順調に見学を行うことができました。子どもたちが運転手さんやガイドさん，ホテルの方だけでなく，道ですれ違う人やお寺の方などに，明るいあいさつができている姿を見て，感心させられました。子どもたちの社会性が着実に身についていることを感じました。

さて，４月から地区のお祭りや様々な会合，学校での活動の支援等で地域の方とお話をする機会がたくさんありました。この上矢作でも人口が 1,900 人を切り，高齢化が進んでいることや子どもの数も次第に減ってきていて，地区によっては子どものいないところもあることを伺いました。現在，上矢作小学校には，学年で 10 名前後の子どもが在籍していますが，今後その数も減っていくことが予測されています。このように，日本のどこでも少子高齢化が叫ばれ，地域をどう存続していくかが課題となっています。

さて，恵那市では教育の基本理念のひとつとして「ふるさとを愛する」ことを掲げています。「地域に根ざし，地域を生かした，特色のある学校」を方針としています。上矢作小学校でも，壮健クラブや営農組合，ＪＡの方にご協力を得て野菜や稲作等の栽培学習を行ったり，「地域めぐり」として地域の方を講師に招いて地域の学習を進めたり，先日はセルプかみやはぎの作業所まつりに太鼓の演奏で参加したりと，地域の方との関わりを大切にした活動を推進しています。地域の多くの人に支えられながら，子どもたちが見守られ，学校が運営できていることに感謝いたします。このような活動を通して，子どもたちに郷土を知り，郷土に愛着をもてる心を育てていきたいと考えます。

情報化が進み，便利な世の中になっている今，若者の都市への流出は大きな課題となっています。町内に高等学校以上の教育機関がない上矢作町の場合，中学校卒業後は町外へ通うことになります。町外へ出ても，自分の育ったふるさと上矢作を愛おしく感じ，心と心がつながる地域・学校であることをめざしていかなくてはならないと感じます。

このように学校も地域社会も様々な課題を抱えています。地域と学校が子どもの教育について同一歩調で歩んでいけるように，恵那市では今年度から「コミュニティースクール」の制度を採り入れました。この制度は，地域の代表者に学校の経営方針を承認していただき，学校運営を行っていくというものです。この地域の代表者の会を「学校運営協議会」といい，上矢作町では小学校と中学校が合同で６月を目途に設置します。今後は，「コミュニティースクール」として，“地域の学校”の色を前面に出していくことになります。地域の皆さんの意見や要望に耳を傾けながら，学校運営を進めていきたいと考えていますので，よろしくお願いします

ホームページの更新を再開しました

担当者の異動でしばらく更新が滞っておりましたホームページの更新を５月中旬から再開しました。

新着情報　に子どもたちの活動の様子を順次アップしています。また，役立ち情報　の「学習に役立つリンク」にも，家庭学習に活用できる「教科学習 Web システム」（ログイン名とパスワードは担任から連絡済です）や「電話相談窓口の紹介」をアップしました。学校からの情報の発信に今後もホームページを活用していきたいと思いますので，ときどき学校ホームページを閲覧してみてください。